

都立中央図書館の在り方の方向性について

- 現在の都立中央図書館は閲覧中心の空間で、調査研究に役立つ豊富な資料・充実したサービスを提供してきた。
- そのような中、施設の老朽化等を踏まえ、再整備を見据えて新たなコンセプトや機能等を検討してきた。
- 例えば北欧諸国の図書館等で、従来の閲覧提供機能に加え、文化的な対話の場、多様な学びの場、創作活動の場、インスピレーションを得る場など新たな価値や機能を提供していることを参考にした。
- さらに、「都立中央図書館の在り方を考える有識者会議」における議論も踏まえ、以下のとおり整理した。

<都立中央図書館の在り方の方向性>

- ・ デジタル社会におけるリアルな図書館の意義は、本から必要な情報を探すことにより物事を俯瞰できたり、偶然手にした本から多様な情報が得られ、意外な発想や新たな発見を生むことにある。
- ・ 図書館を、活字の「本」だけでなく映像、音楽、人（知識、経験）などを含めた様々な知から新たな知を生み出す空間と捉え、新たな図書館のコンセプトとして「**Library for Creation**（創造・交流図書館）」を掲げる。
- ・ 新たに付加する機能としては、「知的好奇心を喚起し学びを深める」「人々の創造や交流を生み出す」「多様な知を集積・発信」の3点とし、相互に作用・循環することで新たな知の創造に繋げるものとする。具体的な取組に当たっては、調査・研究の支援という従来の強みを生かしたサービスを展開していく。
- ・ このような新しい図書館を展開するための再整備について、現地改築では解体・新築工事に伴う休館等により十分なサービス提供が不可能であることなどから、移転して行うものとする。
- ・ 新たな図書館の移転先は、創造や交流といった新機能を発揮するために、アクセスが良く子どもから大人まで多くの人々が行き交い、周辺に教育機関が集積し様々な活動が展開されているエリアである神宮前五丁目地区の公有地がふさわしいと考える。

今後、この方向性に基づき、都立中央図書館の在り方を検討していく。